

平成28年漁期 ずわいがに漁獲可能量(TAC)案について

(単位: トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考											
		水準	動向	25年	26年	27年	28年	漁獲シナリオ (管理基準)	25年	26年	27年	28年 (案)												
ずわいがに	<p>【中期的管理方針】 日本海系群、太平洋北部系群及び北海道西部系群については、資源の維持若しくは増大を基本方向として、安定的な漁獲量を継続できるよう、管理を行うものとする。特に、日本海系群については、その主たる生息域に日韓北部暫定水域が含まれており、同水域で大韓民国漁船によっても採捕が行われていることから、同国との協調した管理に向けて取り組むものとする。 オホーツク海系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみでの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。</p>												<p>【28年TAC設定の考え方】 【西部日本海(A海域)】 中期的管理方針を踏まえ、資源の維持及び安定的な漁獲量を継続できることを基本方向とし、「④2014年の親魚量の維持(3,800トン)」と同数のTAC(案)3,800トンとする。 【北部日本海(B海域)】 中期的管理方針を踏まえ、資源の維持及び増大を基本方向とし、「③親魚量の確保(590トン)」と同数のTAC(案)590トンとする。 【太平洋北部系群】 中期的管理方針を踏まえ、資源の増大及び安定的な漁獲量を継続できることを基本方向とし、「②資源量の増大(59.5トン)」と同数のTAC(案)59.5トンとする。 【オホーツク海系群】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量(443トン)をベースにTAC(案)500トンとする。 【北海道西部】 中期的管理方針を踏まえ、現行の漁獲量を継続できるよう、「1997年度以降の最大漁獲量:43トン(参考扱い)」と同数のTAC(案)43トンとする。</p>											
	西部日本海 (A海域)	中位	横ばい	3,800*	3,700	3,500	3,800	2014年の親魚量の維持(④)	3,800	3,700	3,500	3,800	【太平洋北部系群】 中期的管理方針を踏まえ、資源の増大及び安定的な漁獲量を継続できることを基本方向とし、「②資源量の増大(59.5トン)」と同数のTAC(案)59.5トンとする。											
	北部日本海 (B海域)	高位	減少	490	530	660	590	親魚量の確保(③)	490	530	660	590	【オホーツク海系群】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、最大の来遊状況に対応できるよう、近年の最大漁獲量(443トン)をベースにTAC(案)500トンとする。											
	太平洋北部	低位	減少	440	188	20.1	59.5	資源量の増大(②)	440	188	20.1	59.5	【北海道西部】 中期的管理方針を踏まえ、現行の漁獲量を継続できるよう、「1997年度以降の最大漁獲量:43トン(参考扱い)」と同数のTAC(案)43トンとする。											
	オホーツク海	低位	横ばい						500	500 (630)	500 (1,000)	500												
北海道西部	高位	増加	(43)	(43)	(43)	(43)	(1997年度以降の最大漁獲量)	43	43	43	43													
合計								5,273	4,961 (5,091)	4,723.1 (5,223.1)	4,992.5	※TACの管理期間は、「7月～翌年6月」												

注1) 北海道西部系群では、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、ABC欄の値は参考扱い。

注2) 西部日本海の25年度の値(*)は、ABCではなく算定漁獲量。

注3) 26年と27年のTAC欄下段()書きは、期中改定後の数量。

資源評価結果

<参考> Blimitと親魚量

ずわいがに	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2016年漁期漁獲量(トン)	評価		2015(2014)年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に2015年の親魚量又は平均親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
日本海系群 (A海域)	中位	横ばい	>Blim	ABClimit					
				*① 親魚量の増大(0.58Fcurrent)	2,100	100%	100%	(2015年) 2,500トン	親魚量 2,400トン
				*② 2013年の親魚量の維持(Fsus1)	2,800	99%	99%		
				*③ 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	3,400	95%	96%		
*④ 2014年の親魚量の維持(Fsus2)	3,800	89%	91%						
日本海系群 (B海域)	高位	減少	-	ABClimit					
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	390	-	-	-	未設定
				*② 適度な漁獲圧による漁獲(F0.1)	440	-	-		
*③ 親魚量の確保(F30%SPR)	590	-	-						
太平洋北部系群	低位	減少	<Blim	ABClimit					
				*① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	12.3	100%	100%	(2014年) 62トン	親魚量 63トン
*② 資源量の増大(0.3Fave3-yr)	59.5	100%	100%						
オホーツク海系群	低位	横ばい	-	-	-	-	-	-	-
北海道西部系群	高位	増加	-	* 1997年度以降の最大漁獲量(C1997)	(43)	-	-	-	未設定

- 注1) オホーツク海系群は、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。
 注2) 北海道西部系群では、既存の情報からは資源量の算定が困難なことから、定量的な評価は行っていない。
 注3) * のついたシナリオが、中期的管理方針に合致する。